婦人と新社會

山田わか主筆

二月號

經驗家か理論家か

公民權と婦人

婦選と公娼

女性の歴史

男性と云ふもの

科學的知識

三越

昭和四年一月二十三日印刷納本

昭和四年二月一日發行　第百〇七號　毎月一回一日發行

東京　婦人と新社會社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

經驗家か理論家か！

新らしい市會には新らしい人物を送りたいと云ふのは凡ての人の希望でありますが、併し、政治は理論ではなく實際であることを思ふ時に、そして、議論には論理が絶對に必要であるように、實際の仕事に對しては經驗が絶對に必要であることを考へる時に、私は、此處に大きな矛盾に突き當ります。

理想としては人格が高潔で、學問があつて多年の經驗と、手腕力量がある人物を望むのですが、併し、さう云ふ人物を實在に見出すことは困難です。

故に、事實としての問題は、多少キズはあつても經驗を積んでゐる人物をとるか、又は、無キズの新人――多くは單なる理論家――をとるかであります。

で、私の考へとしては多少のキズはあつても經驗家の方をとり、大いに働かせると同時に、嚴重な監督を怠らないようにするより外に仕方がないと思はれます。監督が嚴重なら惡いことをしたくても出來ないでせうから。

要するに、選擧人の嚴重なる監督の下に市會を新らしくしたいと私は望むのです。

有効な市會は市民の愛國的な投票と志士的な監督によつて始めて成立するものです。今日迄の市會の腐敗を單に惡性の市議に歸するよりは東京市民の市會監督の不熱心と不誠實に私は歸したい。云ひかへれば東京市民は自治政治を持つ資格さへ無いのではないかとさへ私は疑つてゐます。

もう一度申ますが、自治政の生命と能率は一つにかゝつて市民の監督によるものであることを私は痛切に感じて居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人と公民權

婦人に參政權を認める前提として行政制度審議會が先づ婦人に公民權を認むることを適當とする旨を決議したにも拘らず、有力閣僚中にはこれに全然不同意の者があると云ふことは遺憾千萬です。

そして、その理由は「婦人に公民權を付與することは趣旨において何等妨げはないが……現時の如く一部には依然婦選運動が繼續されてゐるものゝこれが本當の輿論とならない限りはなほ時期尚早と見る外はない」と云ふのだそうです。

人は、誰でも自分の周圍の異性を通じて全部の異性を見る。云ひかへれば、全國の女性が自分を取り卷いてゐる女性と同じ程度のものであると云ふ風に考へがちであり、そして、それは、女性全體の非常に迷惑とするところであると云ふことは私が度々云つてゐる處でありますが、この種類の偏見が內閣のうちにあることは何とも云はふようない迷惑至極のことであります。

望月內相は「人情大臣」と云ふ稱號を與へられて居られる程、それ程、人情味ゆたかなお方であ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

られることを私は想像してゐます。その人情の力をもつて、女性と云ふものは、内相の知る女性のような者ばかりではない、國民のうちの不幸な者、憐れな者に對して内相が持たれると同じ涙をもつた女性、云ひかへれば、憂國の女性も内相の目の屆かない處に澤山居ると云ふことを知つて頂きたい。そして、それ等の女性の力が社會的に充分有益に使用されるよう、幽閉された彼女達の力を解放して、充分活躍せしむるよう、公民權付與に對する尙早竟見を一日も早く撤回されることを私は希望致します。

○

一方に於ける頭の舊い人達が「婦人と政治」はどうのこうのとぐづ〲云つてゐるにはゐるのですが、事實に於て、婦人は嫌やでも應でも早晩負はせらる其の義務を果すために政治に參與しなければならなくなつて來てゐます。且つ、又、區政が家政の延長であり、市政が區政の延長であるならば、そんならば、家政をもつぱら司つてゐる家庭の婦人が區政市政に參加しなければならぬと云ふことは餘まりに當然であります。

家族生活は此の社會に於ける自然に出來上がつた最小の團體生活であります。家庭に於ては、家

族の各員が、皆、その分に從つて、家庭生活のために必要な何にかしらの義務を負ふてゐます。そして、家族員の各自がそれ〳〵の義務を忠實に果すことによつて、その家庭には調和があり、平和があり、かくして、全家族のものが幸福であります。

ですから、政治の芽は家庭にあります。此の政治の芽が無い處に家庭はありません。家庭に於て眞理であるものが同時に國に於て市町村に於て、又、國家に於て眞理でなければならないのです。

要するに、婦人が政治に參與すると云ふことは權利と云ふよりもむしろ義務であります。そして、此の義務を有効に果す、云ひかへれば、與へられた投票權を有効に果そうとすれば、公共の仕事に對する充分なる、そして、適確なる知識が無ければなりません。

けれども、その知識を自分ひとりで得ることは今日の事情の下にある婦人にとつてはなか〳〵困難です、と云つて、その知識はどうしても得なければならない。その知識を得なければ、折角與へられた權利、否、義務を有効に果すことは出來ないから。

そこで、絶對に必要な知識、しかも、適確な充分な知識を得る方法は團體を結んで得ようとするのが最も有効です。自分一人としてゞなく、團體として必要な知識を汲收しようとすることが最も

有利です。つまり、團體を結び、指導者を選定して、その指導者から實際問題の說明やら、その問題に對する批判やらを聽き、そして、政治に於ける自分の立場を決定するのです。

この種類の修養を名づけて公民敎育と云ふのであります。

公民とは男女の一個人としてゞなく、國民として社會人としての活動を意味するのです。

〇

前にも云つた通り、區政は家政の延長であり、市政は區政の延長でありますから、婦人が家政をよりよくより完全に取り運ぶためには區政並びに市政を自分の手のうちに入れて置かなければならない。大體から云ふならば、男子がそれ〴〵の專門の業に專心專意打ち込んで居られるように、云ひふるした言葉で云ふならば、婦人が母として妻としての內助の功を充分に擧げるためには市政及び區政を自分の手のうちに置かなければならないのです。

實際生活即ち家庭生活と政治とを全然別なものとしてしまつて、區政、市政にまつくらな婦人が家政をとり家政を少しも知らない男子が區政、市政を司つてゐた處に、換言すれば、元來、一筋の川の流れであるものを、中途で切斷して置いた處にいろ〳〵の腐敗物が醸造された、つまり、市政

の腐敗を來たしたのです。

○

公民權を得ると云ふことは、自治體の施政に參與して、勝手氣まゝな行動をとると云ふことではありません。自分が一人前の人間になつたに付ては、自分を生んだ親並びに自分を取り卷いてゐた自治體に自分の負ふ處が莫大であるから、其の恩報じをするために、自分の屬する自治體の施政に參與して、幾分なりとも貢献したいと云ふ、つまり、生れてから一人前になる迄に、かけて貰つた金が自分の借金になつてゐるから、それを返濟すると云ふ心持ちが施政に參與する精神でなければなりません。

最近、米國の或る保險會社は、子供を十八才にするまでにはどの位ひの入費がかゝるかを研究しました。そして、それは約八千四百弗でありました。

食費が二千五百弗。衣住費が三千四百弗。國庫支出の教育費が一千百弗。其の補助費が五十弗。醫藥が五百三十四弗。運動費が百三十弗。保險料が五十四弗。雜費が五百七十弗。そして、これは年收二千五百弗の五人ぐらしの家族を研究した結果であります。

云ひかへれば、十八才になつた青年男女は少なくとも八千四百弗の現金を消費してゐるのです。勿論、母親の勞力に對する報酬は其のうちに這入つてゐませんが、とにかく、少なくともそれだけの金額を十八才の青年男女は親及び社會から借りてゐるわけになるのです。

何處の國でも、他人から借りた金を返へせと要求する法律はありますが、併し親及び社會が任意に子供にかけた金を子供に返へせと要求する法律はありません。

併し、それを返へそう、返へさねばならぬと感じることが、公民としての資格が出來たことであり、公民權を得なければならぬ理由であります。あながち、金を儲けて金で返へさなくても、自分が有益な人間になるならば、それだけでも社會を利し、兩親を喜ばせるのですから自分で負ふてゐる借金は返へされることになります。

何にかの役に立つ人間となるならば、それで自分を育てゝ與れた親自分を教育して與れた社會に借金を返へしたことになるのです。

〇

ですから、公民權を得ると云ふことは、公共事業に參與して、今まで、自分を世話し、教育した

親及び社會に奉公する、借金を返へすと云ふ意味であるにも拘らず、今日までの公民權を持つ男子は借金の上に又借金を重ねて行くと云ふ狀態でありました。なぜなら、全國を通じて地方政治は、不平、不滿、及び、腐敗をもつて滿ちてゐました。

と云ふのは、政治の本當の意味が分つてゐない。政治に參與することは公民としての義務を遂行するためであるにも拘らず、私利を增加する權利であるかのように考へてゐた。言論に於てこそ公益を宣言しても事實は私利のために其の權利が利用されてゐたからです。

婦人の力が政界に進出して行かない限りは今日の此の腐敗した狀態は改革出來ないと云ふ信念を私は持つて居ります。

男子の政治が腐敗に腐敗を重ねて行くのは男子はともすれば『先づ一杯』と云つて酒を呑む。呑めば、必ず善からぬ方向に發展して行く。つまり、男子の放浪性はともすれば自分の妻子のことも忘れて、泥濘の中へ一歩々々と踏み込んで行くに反して、女性は、如何なる場所に立ち入るとも決して家庭に自分を待つ夫、又は、子供、或ひは又、親を忘れない。それは私が度々出席する婦人の會合が證明してゐます。

つまり、酒を呑むと云ふことのない、そして、片時も家庭を忘れない女性が政界に進出して行くことによつて、ともすれば不正の渦の中に卷き込まれようとする政治を其の危險から救ひ得ると云ふ信念を私は持つてゐるのです。

婦選と公娼

加藤ひさ

醒めよ女性、汝等の當然受くべき權利を得べく努力せよと叫んだ處で、それは未だ腰の立たない赤坊が悲しい泣きたい感情を與へられるばかりだ。赤坊も時が來れば必ず立つ、そして、立つた時の準備をして置くのも惡いことではないが、時が來ないうちに叫んだとて仕方がない。

公娼廢止も結構であり又婦人參政權獲得も結構なことである。それに付いて變な例ではあるが、今から十五六年も以前にはどんな横町でも燒芋屋の無い横町は無かつたが今は全くその形が見えない。たまに燒き芋が欲しいと思つても買ふ處がない。生活が高上したと云ふのか口が贅澤になつたと云ふのか、何れにしてもお芋の需要が無くなつたのは事實に違ひない。需要がなくなれば燒芋屋は自然消滅してしまふ。

やれ藝者屋が惡いの女郎屋が惡いのと騷いだ處で需要がある間は法律の壓迫からその看板は塗り變へられてもその內容は變らない處がかへ

つて惡くなる。血の通つて居る神經の鋭敏な人間は相手が素人であれ黒人であれ、自分と同じ程度に血も通ひ神經も働く人に行きたがるのは自然である。勿論堂々と看板を揭げての人肉の市はどう見た處で恥さらしに違ひないから、何は兎もあれ看板だけは下ろさす必要はあるが、そうすることは單に外國に對するよそほひに過ぎないだけで實質的には何人の利益にもならない。

　私共が最も急務とするものは國家を充實させる事であり、それは卽ち個人々々の充實に努めることである。一たい精神的の充實と云い物質的の充實と云ひどの程度迄行つたら充實したと云ひ得るかは明かでないが、兎に角精神的充實とは個人々々が滿足してその日その日を愉快に働き餘つた力を後世の爲に、卽ち子孫の爲に善用することではあるまいか。

　併し愉快にその日を送ることは一寸困難なもので矢張りそれには相當の收入が無ければならない。特別の事情で特別な收入が意外にあると云ふこともないではないが先づそんなことは絕對に當にならない。一獲千金を夢見ることが大抵の場合失敗の原因となつてゐる。どうしても人間は一歩づゝ一歩づゝ確りと步を進めて行かなければならない。そして、一段一段づゝ階段を登るやうに丹誠して造り上げた家庭なら家庭と云ふものを 誰れが好んで 蹴飛ばす 者が あらう。

　變體か狂人でない限り誰れが好んで家庭を捨てゝ藝者娼妓とふざけたまねをするものがあらう。只人間には殊に男には慰められたい感情が強く動いて居る。そして、結局その感情さへ滿足されるなら比較的單純な男は滿足するに違ひない。——勿論、之れは眞面目にコツ〳〵働い

て丁度生活し得る程度の人達を指して居るのであるが――凡ゆる女性がそのつもりになれば藝者屋も女郎屋も外面的でなく實質的に無くなると思ふ。と云つて凡ゆる女性が藝者娼妓のやうに媚を賣れと云ふのではない。藝者娼妓の中にも素人の中にも得難いやうな眞實を持つた者もあらうし又素人の中にも商賣人以上にいやらしいそして冷淡な者が無いとも云へない。それで、無味乾燥な家庭の淋しさから或る機會でそう云ふ社會の中に情の豐かな者を見出せばどうしても其方へ心が傾くやうになる場合無茶苦茶にそれを放蕩とか浮氣とか云つて責むる前にさう云ふ動氣を造つた家庭の女性には罪はないかと考へる餘地がある。眞實と眞實、それは神聖なものであつてそれが花流界で行はれたとてきたないものとは云へず、又、不眞實と不眞實が神聖であるべき家庭内で行はれるならそれは堂々と看板揭げた人肉の市よりも一層いやしい。

神聖で高尙で愉快な家庭から變體か狂人でない以上誰れが好んで無駄な金を費すべく花流界などに足を入れやう。

家庭、昔からの言葉で云へば家と云ふものを日本の所謂貞女なる女性は餘りに思ふので、その家庭を圓滿にしやうと云ふよりはその家をつぶすまいとする觀念が强過ぎてなり振りかまはずに、おしやれをする處か身嗜みすら忘れて斯ふもすればムダがはぶけるとかあゝもすればとくがあるとか云つて一生懸命家のことに心を集中し過ぎる傾きがある。

勿論これは結構なことであつてそれでこそお家は安全、引いては國家も益々安全であるやうに思へるが、さて一方夫なる側から見れば一日働いて歸つて見れば女房は色も艶もなく働いて居る、働いて呉れるのは實に有難いがさて其處

に何んとなく不滿が起る。處へ一方男を慰める專門的商賣人があつて至れり盡せりのもてなしをしやうと待ちかまへて居る。金錢を無上の寶と考へない以上普通の人は愉快に待遇される方へと傾いて行き勝ちなのはどうにも仕方がない。併し男だとて自分の汗水流して儲けた金をそうして湯水のやうに費やすのを喜ぶものはない。せめて女房がこの半分でもうまくもてなして呉れたならと必ず思ふに相違ない。けれども日本の男は昔からの惰性的習慣でそれを口にすることは出來ないらしい。其處で女が氣を利かせる必要がないだらうか。お家が大事か家庭が大事か、云ひ變へれば先祖の殘した財産が大事か、それとも夫及び子孫が大事か。夫を大切にし夫を愉快にすることに依て自分も愉快になり子供も愉快になる。圓滿なる家庭には例外は別として良い子供ができる。働くことは最も善いことであるが周圍を不愉快にするやうに下手に働いてはかへつて禍をかもすことになる。

藝者でも娼妓でも眞實を以て眞實たる人を求め美しい家庭を造るやうに心掛け、眞實の無いものに金で身を許すことが最も恥かしいと心から感ずるやうになれば自然その營業がいやになる。家庭の女性が氣が利く結果男が花派界に行くのが嫌になり、花流界の女性が精神的に向上すればいやでもその商賣は燒芋屋的に消滅する。

眞實と眞實、所謂ベターハーフとベターハーフと言い得る夫婦が大多數なら選擧權などどちらが持つて居たとて同じことで一人が持つて居ることが二人が持つて居ることになる。

* * *

女性の歴史

第二章

原始時代に於ては男は自己及びその妻又は社會を魔術のような力に依て支配して居た。そして、又、魔術に依て支配されて居るものと凡ての人が感じて居り、凡ゆる物の裏面には神秘な力が存在して居つて、その力が凡ゆる出來事の因となつて居ると信じて居た。この神秘の力は善に於ても惡に於ても多種多樣の形となつて現はれて居たがその最も著しく現れてゐたのは女性に於てゞあつた。そして、この神秘な力を女性が所有して居るといふことが原始時代の女性の位置を説明して居る。

若し、私共が外國の社會に於ける女の位置を正しく評價しやうとするならば、先づ、最初の總括法を記憶して置かなければならない。マダガスターに於ける女の生活、女の力、女の危險性、女の義務及び女の取扱等を。

男に取つて女が最も危險でありさうな時期は、野蠻人の信仰に從へば、月經時と結婚期とである。

何故に人類の歴史は過度とされた性關係をもつて始められたのであるか。それ等の事實をもつてすら原始時代の婦人の生活は有利な立場にあつて彼等の爲すべき仕事は興味あるものであつたといふことを私共は記憶せねばならない。

原始時代の女はその自然の作用である處の結婚することと母となることは確實であつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

然し、彼等の持つ迷信的恐怖がその利益の一部を破壞した。如何にして破壞したかといふに、後には不公平となり苦痛となつた處の制限と分業とが女性に課せられたからである。

女性は原始時代に於ては宗教界に入れられなかつたのであるが、之れが女を墮落させ小ひさなものにしたのであつた。女の歴史の上に斯る重大な結果を與へた處の宗教界からの除外に關する詳細を私共は折を見て說明しなければならない。

女性は危險がられてゐたと同時に子供を生むといふ價値ある事業を持つて居た。男は又女との接觸を恐れるよりも子供を生ましむることにより多くの誇りを持つてゐた。斯くして男は女を崇拜し稱讚するやうになつた。殊に、或る農業社會に於ては女は凡ゆる自然物をして豐饒ならしむる神祕の力の持主として、原始時代の恐怖に超越した權力を持たしめてゐた。

一夫多妻は女の墮落の原因であると云ふ想像は全く過りである。この點に關してはスタンダルの戀愛の分類と原始時代の人間生活の事實は大いに注意すべきものである。（つゞく）

男と云ふもの

結婚前に見た男性と結婚後に見た男性と云ふことに付て書けと云ふ依賴を或る雜誌社から受けましたが、さて、いよ／＼書かうと云ふ段になると、これは面倒な問題だと云ふ氣がして來ました。なぜなら、結婚前に見る男性と云ふのは主もに父であり兄であつて、そして、もし、

その父兄が立派な人格者であるならば「男性は立派だ！」と云ふ觀念を得るでせうし、もし、その反對ならば、殊に、大酒のみやならず者であるならば「男は厄介な動物だ！」と云ふ觀念を持つてしまうでせう。

　結婚して後もやはり同じことで、自分の夫の性質を通して一般の男性を評價してしまうことは止むを得ない。夫にさん／＼苦しめられた結果、「私、男は大きらい。男程手前勝手な厄介な動物はありやしない」と憤慨に餘生を送つてゐる婦人があると同時に、「私の主人はかく／＼でありました」と、有りし日の夫のおもかげや言行を並べて、まるで、有りがたい神や佛に對する時と同じ氣持ちで、感謝の涙と最も謙譲な態度で亡き夫の話をする婦人もあります。

　ですから、男性觀察は各人各樣に皆異るものでありませう。そこで、私も自分自身の經驗から云ふならば、まだ、父の家にゐる間は「男とは素晴らしい立派な者だ」と思つてゐました。それは自分の父と兄が標準でありますから。けれども、廣く世間を見るようになつてからは、「世間の男は自分の父や兄とは違つてゐる。どうまんでずぼらで其の上に不品行な奴ばかりだ」と考へるようになりました。

　けれども、それもまだ本當に男性を知らない時の見方です。結婚もし、子供も持ち、いろいろの生活經驗を經て來た今日に於ては、女のうちに利口なのも、馬鹿なのも品行の善いのも惡いのも、親切たのも不親切なのもあると同じように、男の中にもいろ／＼の種類の人間があると云ふことが分つて來ました。

　が、總括して見るとやはり女の特色、男の特色と云ふものがはつきりしてゐるように思はれます。それは何にかと云ふと、女の心は小さけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れば小さいなりにまとまり易い。これに反して、男の心はどうもまとまりが付かない。經濟に付て云ふならば、女は、どうしてゞも或る範圍で家計を立てゝ行かうと努力するに反して、男は、やゝもすれば其範圍外に飛び出さうとする。そして、それは經濟に付てばかりでなく、凡てのことにその傾向が現れて居ます。それが進歩的だと云へばそれまでゞすが、併し、そのために彼の妻が苦しめられると云ふ場合は決して少なくないと思ひます。が、夫のさう云ふ傾向に付て、妻が一々腹を立てゝゐたのでは其の家庭は到底平和を缺きます。で、今の私の男性に對する實感は「男と云ふものは所詮やんちや坊主だ。このやんちやを男は墓まで持つて行かなければならないものなのだらう」と云ふのです。

そこで、平和な家庭と云ふのは、それが青年夫婦であれ、中年夫婦であれ、又は、老年夫婦であれ、妻なる人が夫のやんちやを或る程度までは許し、丁度可愛い男の子供に對すると同じやうな寛大な態度で、つまり、母心を持つてやんちやな夫を自分のふところに入れて愛し得る家庭であらうと私は考へてゐます。

科學知識

フランケンスタインと云ふ一人の學者が墓地又は解剖室から人體の殘片を拾ひあつめて來て、そして、一人の人間を造りあげた。けれども、此の人間に魂を吹き込むことは出來なかつた。

造られた此の人間は非常に強い筋肉と、旺盛な動物的情慾と活發な活動力を持つてゐるが、併し、神の息がかゝつてゐないのである。

彼は彼の動物的慾望と動物的同情の遂行をしきりにあせるけれども、凡ての人が彼を避けるので其の意を果すことが出來ない。

で、ツイに彼は彼自身の缺點及び彼自身の姿の醜怪を自覺するにつけても、自分を造つた學者が恨しくなつた。自分が外の人間とは異つてゐることを痛感すればする程、復讐の念を燃やすのだつた。

とう〳〵彼は彼の造主の友人、兄弟、及び、花嫁を殺害し、そして、その造主をも殺そうとした。フランケンスタインは一旦は彼の毒手から逃れたけれども、併し、巧みに身を隠してゐた彼のためにやはり殘殺されてしまつた。

以上は、バイロンの娘で、詩人シエリーの妻であつたシエリー夫人の作品であり、そして、これを書く動機は、或る雨の夜、父バイロンとシエリー夫妻とがドイツの怪談を讀んで、その怪談にまれた小說を書かうと約束し、バイロンは『ヴアンパイヤ』（吸血獸）を書き、シエリー夫人がこれを書いたのですが、そのすごいこと殘虐さは世界一だと云はれてゐます。そして、無理に其の對照を求むるなら、先年の歐州大戰爭であると云はれませう。

そして、この作品は何を意味してゐるでせう。

人は愛されることがなければ此の人生が決して幸福でない。自分が醜であるために愛される見込みがないと自覺した時には自暴自棄となり、破壞的態度になる。

そして、科學的知識だけでは人に恐れられるとも決して愛される見込みはない。

科學的知識がどんなに大きく廣くあつても、それだけでは愛されない。從つて、人生は幸福でない。たましいと云ひ人情と云ふものは科學的知識では造られない。要するに、文明の最高點には科學的知識では達せられないと云ふ、現代の科學萬能主義を諷したものであると私は解釋します。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三越

三越の賣子の態度を實に面白くなく感じ、問題にしようかしらと考へてゐる矢先きに雜誌「三越」に何にか書かないかと編輯の方からの依頼を受けましたので私は「これは丁度よい」と思ひ早速次の一文を草して送りました。

太陽の光線が地上の萬物にあまねく行き渡つてゐるように、一國の政治と云ふ綱は、時の施政者が女性を除外してゐるにも拘らず、實際には男女老若凡ての上にかゝつてゐるように、「三越と云ふ名は全國民の耳朶を打つてゐる名稱であり、そして、その勢力と信望は、確かに、澎湃として朝日の登る觀を呈して居ります。

宏大なる其の建物、最高知識と精練された技術を取り入れた其の組織と設備、貨物の豐富なること、云ひかへれば、大資本と最高文化の偉力が衆人の心を捕へて猶餘まりあるのだと私は觀察致します。

人は誰でも三越店内に一歩足を踏み入れて、その規模の大なる、みがき上げられた清淨さ、まぼしいばかりの燈火、至れり盡せりの設備に接するならば、我が國にも、かくまでに廣大にして華麗な賣店が存在することを喜びもし、且つ、誇りにも思ふに相違ありません。

だが、私自身は告白致しますが、此の偉大なる存在物に少しも親しんで居りません。

「私のうちで消費するもの位ひの實用品はわざ／＼三越を煩はさなくても」と云ふ考へであつても「まあ立派な設備を見物がてらどうせ入用のものなら三越で買つて御らんなさい」と云ふ風に誘はれて、行つて見たこともあります。けれども日本橋の本店へ行つても又は新宿の分店へ行つても私のようなケチな買物をするものに對しては賣子が隨分冷たんであつて、本當に平身低頭全く「御願ひ申上げて」やつと希望の品物を惠んで頂くような狀態であります。

買手がサットゥするのであまりに忙しく賣子の心がイラ〳〵するのだとは重々推察は致しますが、それでも卑しめられた、もう、馬鹿にされに行きたくないと云ふのは確かに私の實感です。

もう昔の話ですが、六七年間米國に生活して、賣手と買手が對等で賣買することに可なり慣れてから歸朝して、そして、商店の番頭達にいやに頭を下げられた時には私は決していゝ氣持ちではありませんでした。下げるあの頭の一ツ〳〵に値段がかゝつてゐる、つまり『ごまかされてゐる』と云ふ氣持がしてなりませんでしたが、併し、今の三越の『賣つてやるぞ、乃至、施してやる』と云ふような態度も決していゝ氣持ちではありません。

私が此の苦情を或る夫人にもらした時に『けれども始終とりつけになつて番頭さんにおなじみが出來るととても親切にして呉れますよ。やつぱり、きまつたとくいになるに限りますね』と云ふ御託宣でありましたが、どうも私位ひの資力のものには番頭さんとおなじみになる程の資格が無いし、本當に、我日本國民の誇りであり喜びである處の偉大なる存在、三越と私がどうも御緣の遠いことを私は遺憾に存じます。

と。書き上げて見て、三越の廣告雜誌『三越』が此の一文を掲載するかどうかを私は懸念致しました。もし、掲載する雅量があればさすが三越だが、そして、三越の生命は萬々歳だがと考へながらとにかく送つて見ました。處が、果して、編輯者は大變困つたと云つて來ました。『賣子の態度は必ず改良させる、だから、あの一文は凡ての店員に示すだけで雜誌に掲載することはかんべん願ひたい、そして、外の方面のことを更に書いて貰いたい。』と云つてまいりました。

差し當り、外に興味も無かつたので私は書きませんでしたが。

〰〰〰〰

本誌定價表（臨時）

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

昭和四年一月廿三日印刷納本
昭和四年二月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區若松町五四
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會
振替東京五三六八八番